

日本の元気を関西から——新名神高速道路

1日の物流量約18万トン、全国トップクラスの交通量を支える名神高速道路。近年は渋滞が慢性化し地域からは、高速道路ネットワークを多重化する新名神高速道路の全線着工が期待されてきました。2012年、NEXCO西日本は、この日本の新たな大動脈の全線開通に向け、スタートを切りました。



八幡JCT-城陽JCT間の着工式(京都府八幡市)

川下川橋での工事(兵庫県宝塚市)

神戸JCTの完成予想図(写真上が高槻方面)

ネットワークを多重化し、高速道路の価値を最大化

日本の大動脈・名神高速道路の現状と課題

日本の経済と物流を支え続けた名神高速道路は、まもなく50年を迎えます

日本国内でトラック輸送される物流量は、1日約79万トン。その半分の約40万トンが高速道路を利用しています。その内、関西・中部断面を往来するのは約18万トンで、主に名神高速道路が、これを支えています。しかし、「日本の大動脈」ともいえるこの区間の一部には、交通事故・自然災害等による通行止めの際、名神高速道路以外の代替路がない箇所があります。

また、名神高速道路の車線拡幅工事や京滋バイパスの開通で一時的減少していた渋滞も、年々増加する交通量に伴い、再び増加傾向にあります。中でも、草津JCT～瀬田東JCT間は、ゴールデンウィークやお盆の期間には、日本最大の16万台/日を超える交通量となり、40kmを超える渋滞が発生しています。日本の大動脈には、このような脆弱な一面もあるのです。

加えて、1963年の栗東IC～尼崎IC間の開通から来年で50年となる名神高速道路は、大規模な改良工事が必要な時期を迎えています。



名神高速道路の渋滞

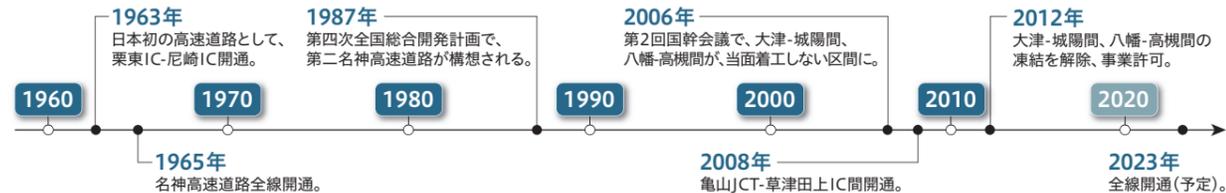
ところが、代替路のない名神高速道路では、長期の通行止めを伴う抜本工事は難しいのが現状です。また、車線規制を伴う昼夜連続の集中工事でも、あらかじめテレビCMなど様々なメディアを活用して広報に努めているものの、最大20km超の渋滞が発生し、通常の2倍以上の走行時間がかかるといったご不便をお客さまにおかけしています。

「有識者委員会」でも関西・中部間の高速道路ネットワークの多重化が求められました

こうした状況の中、2011年4月に国土交通省が設置した「高速道路のあり方検討有識者委員会」から、同年12月に中間答申が出されました。この答申の中で、高速道路ネットワークに求められる機能として、①大都市・ブロック中心都市の連絡を強化する、②主要な都市間・地域間について時速60～80km程度の走行速度を確保する、③災害時にも機能するネットワークを確保する、の3点が重点課題として示されました。

これらの実現には、関西・中部間の高速道路ネットワークの多重化、すなわち新名神高速道路(以下、新名神)の全線開通が不可欠です。2012年4月に一部開通した新東名高速道路とともに『日本の新たな大動脈』を形成し、関西のみならず日本の経済の発展に寄与することが、「新名神」に課せられた役割であり、期待といえます。

新名神高速道路の年表



新名神高速道路の整備がもたらす効果

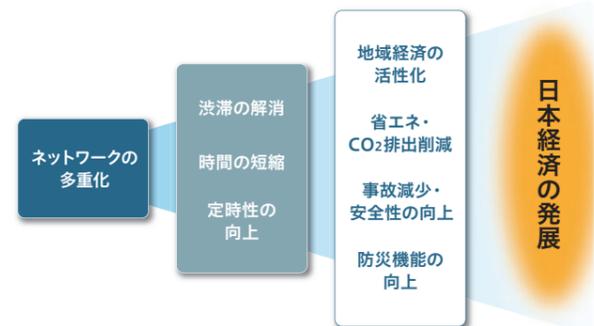
「新名神」の開通で、渋滞の解消、走行時間の短縮に、顕著な効果が期待できます

名神高速道路・草津JCT～中国自動車道・神戸JCT間では全線にわたり慢性的な渋滞が発生しています。しかし、「新名神」の開通によるネットワークの多重化で、交通が分散し、渋滞が解消される見込みです。走行時間短縮という点でも開通効果は顕著です。豊田JCT～神戸JCT間は、現行ルートでは距離240km、所要時間2時間50分ですが、「新名神」では距離200km、所要時間2時間10分となり、約40分も走行時間が短縮されます。

「地域経済の活性化」「地球温暖化^①の防止」「防災機能の向上」を目指しています

地域経済の活性化にも大きな効果が期待できます。2008年に「新名神」の亀山JCT(三重県)～草津JCT(滋賀県)間が開通しましたが、滋賀県では、「新名神」の利便性に期待し工場新設が相次ぎ、2003年から2007年までの5年間の新規工場立地件数の伸び率が全国平均の1.4倍にもなりました。特に、「新名神」沿線の甲賀地域は伸び率が1.6倍と高く、工場立地件数が滋賀県全体の

新名神高速道路の整備で期待される効果



約4割を占めるまでになりました。「新名神」の全線開通時には、沿線各地にこうした効果が波及すると期待されます。

さらに、地球温暖化防止の点でも、既存の道路よりカーブ・勾配が緩やかなことにより期待される燃費向上効果や、道路ネットワーク全体での渋滞緩和によって、CO₂排出量の削減に寄与します。高槻第一JCT～神戸JCT間が開通した際の削減効果は年間約4万トン-CO₂と推計され、これは大阪市の約30倍の面積(49km²)の森林が吸収するCO₂に相当します。

高速道路ネットワークの多重化は、交通事故や自然災害の際に代替路を確保するという点でも、不可欠なものです。特に災害時には、緊急支援のための重要なインフラとなります。

このような「新名神」の開通によって社会経済活動の他、「環境」、「防災」などのさまざまな効果が発揮されるようネットワークバリューの最大化を目指していきます。

担当社員コメント

NEXCO西日本 関西支社
新名神京都事務所 所長
安達 雅人



地域の皆さまのご支援に感謝

京都・滋賀・大阪・兵庫の関係自治体をはじめ地域の皆さまのご支援により、いよいよ、新名神高速道路が本格的に動き出す。「新名神」は、今の名神と一体となって、交通機能を分担する一方で、災害、事故時には相互の代替機能を発揮するなど、経済・社会の発展や人々の暮らしに大きく寄与することが期待されています。まさに、「新名神」の全線整備は、地域の、そして全国の皆さまが待望し、実現した事業と言っても過言ではありません。現場の第一線を担当する者としては、「新名神」に対する社会全体からの期待に応え、「ネットワークバリューの最大化を図る」という使命を果たすためにも、一刻も早い全線の完成を目指し、全力で事業を推進していきます。

期待が高まる日本の新しい大動脈

地域から寄せられた新名神高速道路への期待

関西経済の潜在能力発揮に不可欠な道路として早期開通を求める声が相次ぎました

2011年10月26日、新名神高速道路の早期全線整備を目指すシンポジウムが東京で開催され、国会議員や関係自治体など約180人が参加しました。このシンポジウムでは、京都府の山田知事、滋賀県の嘉田知事、関西経済連合会の森会長、中部経済連合会の三田会長、京都商工会議所の立石会頭がパネリストとして登壇し、地元自治体や経済界として「新名神」の必要性を訴えました。

また、2011年12月4日には、京田辺市で行われた「新名神」(城陽JCT～八幡JCT間)の着工式で、沿線の市町長から未着工区間の早期着工を望む声が上がりました。着工式の終了後は、地域の皆さまなど約300人が参加した「新名神とまちづくりを考えるシンポジウム」が開催されました。このシンポジウムでも、現在、「新名神」の全線開通を前提にした街づくりが進められており、

地域の活性化に大きな期待が寄せられ、「ネットワークは1カ所でも途切れると意味がなくなる」「この区間だけ凍結するのはもったいない」などと、全線開通を求める意見が相次ぎました。



2011年10月26日に開催されたシンポジウム「関西発! 国土のリダンダンシー～太平洋国土軸のミッシングリンク」

ステークホルダーコメント



京都府知事 山田 啓二 様
新名神高速道路は、関西のみならず日本の活性化・経済成長に不可欠な社会インフラです。一日も早い全線開通を望んでいます。



滋賀県知事 嘉田 由紀子 様
「古い」「危ない」「混んでいる」名神高速道路の課題を解消するには、新名神高速道路が必要です。新名神高速道路を全線整備しないのは「もったいない」。



関西経済連合会会長 森 詳介 様
関西経済がそのポテンシャルを最大限発揮し、日本経済を牽引していくためにも新名神高速道路の全線開通を強く望んでいます。道路ネットワーク整備は将来への投資です。

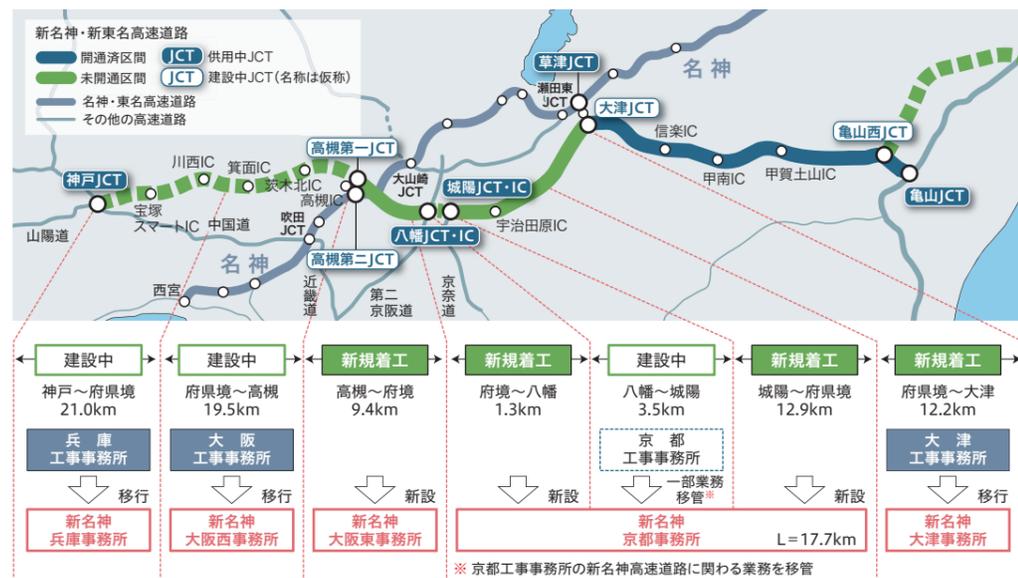
※シンポジウム「関西発! 国土のリダンダンシー～太平洋国土軸のミッシングリンク」での発言から抜粋

早期全線開通を目指し事業を展開

NEXCO西日本グループの総力を結集して現場体制を大幅増強しました

2012年4月の事業許可を受け、「新名神」の建設事業を担当する現場事務所体制を4事務所から5事務所を増強しました。このうち、従来から建設を進めてきた城陽JCT～八幡JCT、

新名神高速道路の事業区間と体制 (IC・JCT名の一部は仮称)



高速道路建設の流れ



高槻第一JCT～神戸JCT間については、新名神京都・大阪西・兵庫事務所が担当。地域との対話を重視しつつ、早期開通を目指し工事を進めています。また、今回事業許可となった大津JCT～高槻第一JCT間35.8km(城陽JCT～八幡JCT除く)では、新名神大津・京都・大阪東の3事務所が担当し、調査、設計および行政等との調整を開始しました。「新名神」を新世代高速道路の代表とするために、グループ丸となってこの大規模プロジェクトに取り組んでいます。



建設中の新名神高速道路(兵庫県猪名川町)



現場説明会の状況

安心して活力ある地域社会の実現へ

最新の技術を導入し、ネットワークの多重化と高速道路価値の最大化を図っていきます

「新名神」では、お客さまにとって安全で走りやすく、便利で楽しく、環境にもやさしい、また地域の活性化に資するような地域社会との連携、共生など高速道路に求められる機能を最大限盛り込み、新世代の高速道路を目指します。

これには、当社が現在進めている構造物の延命・長寿命化、ライフサイクルコストの削減、高精度な情報収集と情報提供の充実などに加え、CO₂排出量の削減のための照明のLED化による省エネルギーや遮音壁一体型太陽光発電による創エネルギーなどの取り組みに、グループの英知を結集し、よりいっそう進めていきます。



山陽自動車道・三木SA(上り線)

また、「新名神」は名神等と一体となったネットワークの多重化を図るとともに、人と地域、地域と社会を“つなぐ”ことで産業・経済の発展と国民の生活向上に貢献する社会的インフラとして使命を果たします。

そして、日本の元気を関西から発信します。

担当役員コメント

NEXCO西日本
関西支社 支社長
芝村 善治

新名神高速道路全線事業着手!



関西支社では、開通後約50年が経過し老朽化が進む名神高速道路をはじめとした重交通路線を抱えており、安全・安心の確保と、お客さまサービスのさらなる向上が最大の使命です。また、2012年4月20日に新名神高速道路の全線事業着手が決定さ

れました。「新名神」の建設により、国土軸として、広域物流や沿線地域の振興に貢献するとともに、現名神等と一体となった災害に強いネットワークの多重化が図られます。

この「新名神」建設においては、高速道路50年の歴史でつちかわれた英知を結集し、激甚な災害が発生した場合でも、道路サービスを間断なく提供し続ける「未来につなぐ信頼の道」を目指します。事業を進めるにあたっては、地域の皆さまとの対話を重視しつつ、工事中の安全・安心の確保はもちろん、自然環境の保護に努め、事業全体のコスト管理を行いながら、着実に事業を進めてまいります。

地域の皆さまにおかれましても、「新名神」事業をはじめとする高速道路事業への、ご理解とご協力を賜りますようお願い致します。